

The University of Aizu  
Center for Cultural Research and Studies  
Annual Review No.31, 2024

会津大学文化研究センター  
研 究 年 報

第 31 号  
2024



会津大学

2025年3月 発行

# 目 次

	Page
<b>巻頭言</b>	
・2024年活動報告 -少子化時代の大学教育とセンターの役割	中澤 謙 1
<b>研究・教育・活動報告</b>	
・網谷 祐一	5
・池本 淳一	6
・蛭名 正司	7
・小川 千里	8
・沖 和砂	9
・荻間澤 勇人	10
・小暮 克夫	11
・中澤 謙	12

## 【巻頭言】

# 2024 年活動報告 -少子化時代の大学教育とセンターの役割-

## 文化研究センター長・中澤 謙

本年度より、荻間澤先生が学生部長に就任し、私（中澤）が文化研究センター長に任命されました。3月19日には、会津大学の開学に尽力された佐藤栄佐久・元福島県知事が逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

私が赴任した1993年当時、磐越自動車道は未開通で、大学には食堂や体育館もなく、研究室も未完成でした。そのため、ワンフロアをパーティションで仕切った仮設の環境で業務にあたっていました。また、健康増進法が制定される前で分煙意識が低く、室内に煙が立ちこめるのも当たり前の光景でした。

時が経ち、かつて苗木だったグラウンド横のポプラは大木となり、倒木の危険があるため、今年剪定されることになりました。このように、大学の環境は変化し続けており、センターの取り組みも時代に即して進化しています。2024年度の活動では、「健康日本21（第三次）」の改訂に伴い、2025年度から「保健学」を「健康教育概論」に改称し、新たに「精神保健学」を開講することが決まりました。また、4月には教育学を専門とする河村先生がセンターに加わります。

大学教育を取り巻く環境に目を向けると、中央教育審議会の答申（令和7年2月21日）では、少子化による進学者数の減少に加え、地方での高等教育機会の確保が喫緊の課題と指摘されています。その上で、大学改革を通じた社会課題の解決が求められています。答申では、教育研究の質の向上、高等教育機会の適切な確保、地理的・社会経済的観点からの教育機会均等が追求すべき価値として示され、「総合知」の活用や「文理複眼」的思考の重要性が強調されています。こうした流れの中で、文化研究センターの教員に求められる役割も拡大していくと考えられます。

近年、学生の学習ニーズは一層多様化しています。手厚い指導を求める学生、自主的に学ぶ学生、グループ活動を好む学生、協働を重視する学生など、異なる学びのスタイルを持っています。このような状況の中、大学には、初等・中等教育で育まれた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の三つの資質・能力をさらに発展させることが求められています。また、高等学校では探究的な学習活動が本格化し、小・中学校では1人1台端末の活用が進むなど、学習環境は大きく変化しています。

このような背景の中で、画一的な指導と自律的・探究的な学びのバランスをどう取るかが重要な課題となります。厳格な成績評価を維持しながら、個別最適な学びと協働的な学びを調和させることが求められます。さらに、一人ひとりの特性に応じた学習環境の整備も今後の大きな課題です。少子化を背景とするこれらの課題に対し、大学全体でバランスを取りながら、スピード感を持って対応する必要があります。文化研究センターの教員も専門性を生かし、より良い教育研究環境の提供に努めていきたいと考えています。



# 研究・教育・社会活動報告



網谷 祐一 (2023年4月～2025年3月)

## 1. 研究活動

研究論文

- 2023年7月 ``Finding Value-Ladenness in Evolutionary Psychology: Examining Nelson's Arguments," *History and Philosophy of the Life Sciences*, 45: 36. DOI: 10.1007/s40656-023-00590-7 [査読あり]

研究発表

- 2024年9月「分類学は二流の科学か」、生物学基礎論研究会、会津大学、福島。
- 2023年11月 ``When Interest-based Explanations Succeed," *Philosophy of Science Around the World*, Online
- 2023年7月 ``When Interest-based Explanations Succeed," The 10th Biennial Conference for the Asian-Pacific Philosophy of Science Association, Vin University, Hanoi, Vietnam.
- 2023年6月「社会的要因からの説明の諸相」、科学基礎論学会、東海大学、平塚。

翻訳

- リー・マッキンタイア著『「科学的に正しい」とは何か』ニュートン新書 (ニュートンプレス)、東京、2024年4月 [監訳]

競争的資金獲得

- 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「アップデートされた「心の進化研究」の方法論的検討」(課題番号: 21K00036)、2021年4月-2024年3月、総額130万円(研究代表者)。

## 2. 教育活動

会津大学における担当授業 (2024年度)

- アカデミックスキル1・2
- 哲学(日・英)
- 科学史
- 課外プロジェクト(「AI・ロボットと倫理」)

非常勤講師(主なもの)

- 2024年7月東京大学大学院医学系研究科(担当科目:「医学共通講義 XXII (生物学の哲学入門)」)
- 2023年8月東京大学大学院教育学研究科(担当科目:「分類科学特論」)

## 3. 社会活動

一般向け講演

- 2024年7月「研究とはなにか、どういう意味があるか: 探究学習のすすめ」、福島県立会津高校。

学外委員

- 日本科学哲学会(理事[理事会担当理事]、学会誌編集委員)、科学基礎論学会(評議員)、『科学哲学科学史研究』誌(編集委員)

池本 淳一 (2023年4月～2025年3月)

## 1. 研究

(著作等出版物) なし

(共同研究)

2022.5～2025.3 「空き家対策の推進」(喜多方市・都市整備課との共同研究)

(その他)

池本淳一、2023、「生涯スポーツの「入り口」としての学生武術」、日本武術太極拳連盟『武術太極拳』、No.402、2023年8月、pp.18-19.

(制作物・企画・イベントなど)

池本淳一、2023.3.18-27、「デジタル未来のモノづくり～3Dモデルをつくろう!～」 「浮き出る物体!疑似ホログラム体験」、デジタル未来アート展 (2023.3.18-27、会津若松市・稽古堂)、株式会社ルート49様 (デジタル未来アート事業実行委員会からの事業受託者) より奨学寄附金を授与。

池本淳一、2023.11.12、「大塚山古墳」(MDF製組み立て模型)、(2024.11.12、福島県立博物館・考古学講座「会津大塚山古墳をつくろう」にて使用)。

池本淳一、2024.3.16-24、「デジタル未来のモノづくり2～3Dモデリング～」 「デジタル未来のモノづくり2～電子工作のふしぎ発見～」 「疑似ホログラム2」 「ゲームで遊んで郷土を知ろう!」、デジタル未来アート展 (2023.3.16-24、会津若松市・稽古堂)、株式会社ルート49様 (デジタル未来アート事業実行委員会からの事業受託者) より奨学寄附金を授与。

池本淳一、2025.3.15-24、「デジタル未来のモノづくり3」 「光の宝さがし」 「ゲームで郷土と社会を知ろう!」 デジタル未来アート展 (2024.3.15-24、会津若松市・稽古堂)、宮泉銘醸株式会社 (デジタル未来アート事業実行委員会からの事業受託者) より奨学寄附金を授与。

## 2. 教育・運営・FD活動

(担当授業) アカデミックスキル1・2 社会学 地域社会学 Sociology (集中講義)

2023年度前・後期 課外プロジェクト「地域イベントと観光サポートプロジェクト」

2024年度前・後期 課外プロジェクト「デジタルゲーム&地域イベントプロジェクト」

(サークル顧問) カンフーサークル

## 3. 社会貢献など

2020.10～2025.3 会津喜多方商工会議所 事業推進アドバイザー

2023.6.18～2025.6.17 喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会委員

2023.6.16～2025 (終了時まで) 公益財団法人会津若松文化振興財団 理事



蛭名 正司 (2023年4月～2025年3月)

## 1. 研究活動 (著作・出版, 学会発表など)

### 【学会発表】

- ・蛭名正司 割合の問題解決に及ぼす直観的推論の影響 日本教授学習心理学会第19回年会予稿集, 12-13 (2023. 6)
- ・蛭名正司 割合の問題解決におよぼす知識の利用目的明確化の効果 日本教授学習心理学会第20回年会予稿集, 26-27 (2024. 6)
- ・Ebina, S The Effectiveness of Open-Ended Problems in Correcting the Misconception of Ratio Addition. International congress of psychology. (2024.7)
- ・蛭名正司, 渡部有隆, 柴田和聖, 菊池 啓一郎 自動採点システムを用いた高校のプログラミング授業の効果 日本教育心理学会総会発表論文集 66, 288 (2024.9)
- ・蛭名正司 仮想生徒を用いた数学授業シミュレーションにおける教職課程学生の対話分析 日本教育工学会 2025年春季全国大会 (2025. 3)

### 【研究助成等】

- ・福島県学術教育振興財団助成対象事業 “高大連携による AOJ を用いたプログラミング学習環境の構築” 研究分担者 (代表: 渡部有隆) (2023.4-2025.3)
- ・Enhancing Computer Science Education with Adaptive Intelligent Platforms: The Power of AI and ChatGPT (the 2024 University of Aizu Competitive Research Funding) 研究分担者 (代表: Mohamed Hamada)

## 2. 教育活動

教育心理学, 教育方法, 教育課程論, 数学科教育法1, 数学科教育法4, 情報機器の活用に関する理論と方法, 教職実践演習, 教育実習1, 教育実習2, 教育実習事前事後指導, アカデミックスキル1, アカデミックスキル2, 卒業研究, 課外プロジェクト「教師になろう！」

## 3. 学内運営 (委員会など)

情報センター運営委員会 (2024年4月ー)

図書委員会 (2024年4月ー)

## 4. 社会活動

### 【委員等】

- ・会津若松市教育委員会「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」委員 (2018-)
- ・会津若松市立一箕中学校学校運営協議会委員 (2020-)

### 【その他】

日本教授学習心理学会理事 (2023-)

日本教授学習心理学会編集委員会事務局 (2019-)

小川 千里 (2023年4月～2025年3月)

### 1. 研究 (主要なもの)

(招待講演)

・小川千里(2024). 「よりよい人間関係を育むための保護者・先生向け SGE エクササイズ体験」, 令和6年度「地域でつながる家庭教育応援事業」, 福島県教育委員会, 2024年7月31日.

(書籍)

・Ogawa, O.C. (Forthcoming). 'Characteristics of Coaches' Behaviour Towards a Japanese University Athlete Displaying Psychosomatic Movement Disorders: A Longitudinal Case Study in Elite Sports Education', Graciu, N. (Ed), *Reflection on Higher Education: Challenges and Achievements*, Proud Pen: London.

(学術論文)

・Ogawa, O.C. & Yamada, M., (2024). 'Effectiveness of Training for Dealing with Children's Mental Health in Japan: Toward the Development of a Desirable Training Program for School Teachers and Childcare Workers', Paper presented at the 17th Annual International Conference of Education, Research and Innovation, November 11-13, 2024, Sevilla, Spain, pp.40-47.

・小川千里・内野博之 (掲載決定) 「解決志向チーム会議の導入が「チーム学校」に与える影響に関する経営学的検討—管理職のリーダーシップ機能への提言—」, 教育カウンセリング研究.

(学会発表)

・Ogawa, O.C. & Uchino, H. (2023). 'Impacts on Collaborations in Educational Counseling by Utilizing the Solution-Focused Team Meeting Method: A Case Study from the Managerial Perspective', 44th Annual Conference of the International School Psychology Association, July 5-8, 2023, Bologna, Italy.

・Ogawa, O.C. (2024) . 'Psychological Development of a Coach in Elite Sports Education: A Longitudinal Research', 33rd International Congress of Psychology, July 21-26, 2024, Prague, Czech Republic.

・小川千里・仲村幸子・内野博之・山田まり子・佐藤好江・神保しげみ・荻間澤勇人 (2024) . 『「チーム学校」実現のために—解決志向チーム会議の導入と定着—』, 第21回日本教育カウンセリング学会自主シンポジウム, 2024年9月28-29日, 岩手県立大学.

(競争的資金の獲得)

・2021-2024年度 科研費 (基盤C) 「スポーツ虐待防止のための指導者の依存性への介入の方略」 (代表)

・2024年度 公益財団法人日本教育公務員弘済会 令和6年度 日教弘本部奨励金「教育相談への解決志向チーム会議の導入と効果の検討: チーム学校の実現のための経営学的研究」 (代表)

(受賞) 優秀賞 (企画部門), 金の糸アワード2024, 日本キャリア開発協会, 2025年1月28日.

### 2. 教育

(担当授業) ビジネス・コミュニケーション, 経営戦略論, ベンチャービジネス論 (2023-2024), キャリア教育 (2023), アカデミックスキル1・2 (2023-2024)

### 3. 社会貢献 (主要なもの)

(外部委員等) Reviewer of Journal of Counseling Psychology, Reviewer of the 33<sup>rd</sup> International Congress of Psychology, A member of the Conference Committees of the National Career Development Association 2023, 日本教育カウンセリング学会査読委員, 会津美里町教育委員会点検及び評価における有識者会議委員, (研修等) 会津大学公開講座 (アイズ・キャリア), 福島県中小企業家同友会会津支部, あいづ・むつ子どもりんごプロジェクト, 日本キャリア開発協会 E18 啓発交流会, (実務経験) オリビア心理カウンセリング研究所

## 沖 和砂 (2023 年 4 月～2025 年 3 月)

### 1. 研究 ※代表的な研究のみ記載

(学会発表)

- ・ 沖和砂, 朱欣. ハンドサイクルトレーニング時に起きる傷害の要因と対策の検討, 第 74 回日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会, 介護予防・健康づくり, 2024.8.31 (口頭発表)
- ・ 長島夏葵, 中村美幸, 沖和砂, 川田裕次郎. インラインアルペン競技者の視線行動: 熟練者と未熟練者の比較, 第 59 回人類働態学会全国大会, 2024.11.2 (口頭発表).

(学術論文)

- ・ Kazusa OKI, Investigation of Preventive Measures for Injuries in Handcycle Training of Disabled Skiers, Biomedical Journal of Scientific & Technical Research, 60 (1), Online Booklet Edition, December 2024 (査読有)

(書籍)

- ・ 水野基樹 [編著], 「リーダーシップの新機軸—スポーツマネジメントと組織論のダイナミズム—」, 株式会社創成社 (コラム 5 編を担当)

(競争的研究費)

- ・ The 2023 University of Aizu Competitive Research Funding “Development of Basic Guidelines for Safe Lift Access for Disabled Skiers” (研究代表者)
- ・ The 2024 University of Aizu Competitive Research Funding “Development of Basic Guidelines for Safe Lift Access for Disabled Skiers” (研究代表者)

### 2. 教育・運営・FD 活動

(担当授業)

- ・ 健康・スポーツ科学実習 1 (3 クラス)、2 (3 クラス)
- ・ 生涯スポーツ科学実習 (スキー)                      ・ 保健学
- ・ 卒業研究 アカデミックスキル 1、2              ・ SCCP (A unique sport in Aizu)

(学内委員会)

- ・ ハラスメント防止/対策委員会 (ハラスメント相談員)      ・ 衛生委員会
- ・ カフェリモデルプロジェクト      ・ 学生支援 WG      ・ 創立 30 周年プロジェクトチーム
- ・ 教職員のための運動プログラム講師
- ・

### 3. 社会貢献

(外部委員)

- ・ 福島県スキー連盟 (総務本部長/副理事長)、国民スポーツ大会福島県選手団監督/コーチ  
「福島のシュプール」2024 年 11 月 1 日発行, 編集委員長
- ・ 福島県スポーツ指導者協議会 (理事・講師)      ・ (公財) 福島県スポーツ協会 各事業 (講師)
- ・ 人類働態学会 (事務局長・理事)
- ・ 日本体育・スポーツ・健康学会 (応用研究部会・スポーツ文化研究部会員) 体育心理分野より選出 (講演活動)

※県内外各所において講演活動を実施

## 荻間澤 勇人 (2023年4月～2025年3月)

### 1 研究活動 (著作・出版, 論文, 学会発表)

- ・荻間澤勇人(2024). 教師こそ, ワーク・ライフ・インテグレーションを目指そう 日本教育評価研究会編 指導と評価 第70巻2月号(通巻830号), pp. 31-33, (一社)日本図書文化協会
- ・荻間澤勇人(2024). 心を育てるエクササイズ7「足じゃんけん」ー自由な心(FC)の表出とソーシャルスキルを高めるー 日本教育評価研究会編 指導と評価 第70巻10月号(通巻839号), pp. 60-61, (一社)日本図書文化協会
- ・小川千里・仲村幸子・内野博之・山田まり子・佐藤好江・神保しげみ・荻間澤勇人 (2024). 「チーム学校」実現のためにー解決志向チーム会議の導入と定着ー 2024年日本教育カウンセリング学会第21回研究発表大会発表論文集, pp. 22-27
- ・ライセンスアカデミー進路情報研究センター(2025). 進路情報研究センターメールマガジン 2025 Vol. 453, Vol. 457, Vol. 461, Vol. 465, Vol. 469, Vol. 473, Vol. 477, Vol. 482, Vol. 486, Vol. 490
- ・熊谷圭二郎・河村茂雄・鹿毛雅治・荻間澤勇人・杉本賢二・藤原寿幸(2024). 学級での協働学習の現状と実質化するための取り組みー小学校・中学校・高等学校の現場からー 教育心理学年報, **63**, pp. 299-311

### 2 教育活動

- ・教育入門      ・教師入門      ・生徒指導・教育相談      ・キャリア教育      ・教育実習事前事後指導
- ・教育実習1      ・教育実習2      ・情報と職業      ・教職実践演習      ・アカデミックスキル1・2

### 3 社会活動

#### (1) 会津大学公開講座

##### ○教員派遣公開講座

- ・福島県教育センター      ・白河市教育委員会      ・福島県立清陵情報高等学校
- ・会津坂下町教育委員会      ・本宮市立本宮小学校      ・会津美里町立高田小学校
- ・矢祭町立矢祭中学校      ・矢祭町立矢祭小学校

#### (2) 研究成果の還元 (研修会)

- ・山形県教育センター      ・山形県 最上教育事務所      ・山形市教育委員会
- ・栃木県 真岡市教育委員会      ・栗原市教育委員会      ・東松島市教育委員会
- ・岩手県 一戸町教育委員会      ・岩手県 洋野町教育委員会      ・岩手県立不来方高等学校
- ・盛岡市立城東中学校      ・盛岡市立黒石野中学校      ・一関市立桜町中学校
- ・一関高等専門学校

#### (3) 委員等

- ・会津若松市教育委員会 学力向上委員会 (委員長) (2016年度から)
- ・白河市いじめ対策連携協力会議 (委員) (2018年度から)      ・その他

#### (4) 学会活動

- ・日本教育心理学会 社員      ・日本教育カウンセリング学会 常任理事
- ・日本教材学会 常任理事      ・日本学級経営心理学会 常任理事
- ・日本特別活動学会 理事      ・日本カウンセリング学会 代議員 (社員)

小暮 克夫 (2023 年 4 月～2025 年 3 月)

## 1. 研究

(学術論文)

- Kogure, Katsuo and Masahiro Kubo, "Cambodian Returning Refugees," SSRN Working Paper, January 2025. (査読無)
- Kogure, Katsuo and Yoshito Takasaki, "COVID-19 and Crime in Space and Time: A Multi-Scalar Causal Analysis in São Paulo State, Brazil," unpublished manuscript, University of Aizu, December 2024. (査読無)
- Kogure, Katsuo and Yoshito Takasaki, "Conflict, Institutions, and Economic Behavior: Legacies of the Cambodian Genocide," *Journal of Economic Behavior and Organization* 228 106796 December 2024. (査読有)

(講演・口頭発表等)

- 小暮克夫「歴史的出来事に対する因果推論」、第 17 回生物学基礎論研究会特別講演, 会津大学 2024 年 9 月 3 日 (査読無)
- Kogure, Katsuo "Long-Term Impacts of Extreme Deprivation in Infancy, Childhood, and Adolescence," Australian Meeting of the Econometric Society, University of New South Wales, Sydney, Australia, August 9, 2023. (査読有)
- Kogure, Katsuo "Long-Term Impacts of Extreme Deprivation in Infancy, Childhood, and Adolescence," Asian Meeting of the Econometric Society, Nanyang Technological University, Singapore, July 28, 2023. (査読有)
- Kogure, Katsuo "Long-Term Impacts of Extreme Deprivation in Infancy, Childhood, and Adolescence," Hitotsubashi Summer Institute (HSI) 2023, Hitotsubashi University, June 10, 2023. (査読無)

(競争的研究費)

- 2024-28 年度 科研費(国際共同研究加速基金(海外連携研究)). 「熱帯雨林の保全と開発に関する学際共同研究の発展に向けて」(研究分担者)
- 2023-26 年度 科研費(基盤研究(B)). 「カンボジアにおける昆虫養殖を活用した貧困削減と未来型食品生産の両立の可能性」(研究分担者)
- 2020-24 年度 科研費(基盤研究(C)). 「紛争と経済発展に関する実証研究」(研究代表者)
- 2018-23 年度 科研費(挑戦的研究(開拓)). 「空間データと開発プログラム評価の統合」(研究分担者)
- 2018-23 年度 科研費(国際共同研究強化(B)). 「熱帯雨林の保全と開発に関する学際共同研究」(研究分担者)

## 2. 教育・運営

(担当授業) 経済学(日本語), 経済学(英語), 経済発展論, アカデミックスキル 1・2

(学内委員会) 教育の内部質保証ワーキンググループ(2023-24 年度)、FD 委員会(2024 年度)

## 3. 社会貢献

(外部委員)

- 一橋大学経済研究所(非常勤研究員)(2021-24 年度), 国際協力機構(JICA)(アドバイザー)(2023 年度), 会津若松地方広域市町村圏整備組合情報公開等審査会委員(委員)(2020-24 年度)

中澤 謙 (2023年4月～2025年3月)

## 1. 研究

(査読論文)

- ・ 中澤 謙, 久田 泰広, 渡部 琢也, 西原 康行 (2025) ウェアラブルアイトラッカーの映像と対話による熟練保育者の「みえ」の共有 日本教育工学会論文誌 49 (1) pp.65-77  
<https://doi.org/10.15077/jjet.48002>

(研究発表)

- ・ 金網 佑馬, 出村 裕英, 中澤 謙, 平田 成 (2024) ARKitのリアルタイム姿勢推定を使用したフォームチェックによる動的筋力トレーニング支援手法の提案. 第2回スポーツ情報学研究発表会 (競争的研究費)
- ・ 2023-2025年度 科学研究費(基盤研究C) 体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発 (研究分担者)

## 2. 教育・学内運営

(教育)

「健康スポーツ科学科目」健康・スポーツ科学実習1 (C2, C3, C5),  
健康・スポーツ科学実習2 (C1, C3, C5), 生涯スポーツ科学実習(水泳)

「人文社会科学科目」 アカデミックスキル1、アカデミックスキル2、保健学

「卒業論文」

「短期大学部」 運動と健康

(学内運営)

- ・ 教育研究審議会, カリキュラムワーキンググループ, 他.

## 3. 社会貢献

(学外委員会等)

- ・ 福島県スポーツ振興基金(理事) / 福島県スポーツ医・科学委員会(委員) / (一社)福島県水泳連盟(医事委員長) / (公財)日本水泳連盟学生委員会(委員) / 会津若松市公園緑地協会運営委員会(評議員)

(講演)

- ・ 令和6年度 美里楽園 第4回学習会 パリオリンピックのはじまり・はじまり! 2024/7/4 会津美里町公民館
- ・ 福島県立葵高等学校 進路講演会 「みる」こと「みえる」こと 2024/8/29 会津風雅堂
- ・ 令和6年度公益財団法人福島県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー養成講習会 スポーツ科学概論 2024/12/1

(大会運営)

- ・ 第100回全日本学生選手権水泳競技大会 (東京アクアティクスセンター, レゾリューション)
- ・ 第7回全日本社会人水泳選手権水泳競技大会 (郡山しんきん開成山プール, 出発合図)

## 執筆者一覧（五十音順）

網谷 祐一	(A)	会津大学教授（哲学・科学史）
池本 淳一	(A)	会津大学上級准教授（社会学）
蛭名 正司	(A)	会津大学上級准教授（教授学習心理学）
小川 千里	(A)	会津大学上級准教授（経営学）
沖 和砂	(A)	会津大学上級准教授（スポーツ健康科学）
苅間澤 勇人	(A)	会津大学教授（教育学）
小暮 克夫	(A)	会津大学上級准教授（経済学）
中澤 謙	(PF)(A)	会津大学教授（保健学）

※ (PF)巻頭言 (A)活動報告

会津大学文化研究センター研究年報 第31号 2024

2025年 3月 31日 発行

発行 会津大学  
郵便番号 965-8580  
福島県会津若松市一箕町鶴賀  
Fax 0242(37)2751  
編集 会津大学文化研究センター

